

水曜通信43

東北学院宗教センター編

2024年
12月

第78回 水曜公開礼拝

2024年12月18日(水) 18:30-19:00

<礼拝次第>

前奏：D. ブクステフーデ作曲

「甘き喜びのうちに」 BWV189



讃美歌：285番「主よみてもて」

聖書：マタイ福音書28章16～20節

讃美歌：312番「いつくしみふかき」

説教：「いつまでもともにいるお方」

頌栄：544番「あまつみたみも」

後奏：J. S. バッハ作曲

「かくも喜びに満てるこの日」 BWV605



説教
大学宗教主任
川島 堅二



奏楽・第2部演奏
教養教育センター教授
大学オルガニスト
今井 奈緒子

後奏の後、今井奈緒子氏(礼拝オルガニスト)によるオルガン演奏による賛美を行います。

次回第79回水曜公開礼拝は1月15日です。

第77回 水曜公開礼拝報告（説教：成 智圭、奏楽：小野 なおみ）

2024年11月20日（水） 18：30－19：00

讃美歌：243番「あまのひとみ」
聖書：ヨハネによる福音書21章15～19節
讃美歌：271番「いさおなきわれを」
説教：「愛ってなんですか」
頌栄：541番「ちちこみたまの」



【説教要旨】

イエスの一番弟子を自負していたペトロは、十字架にかかり、復活したイエスに聞かれます。「わたしを愛しているか。」ペトロは答えます。「わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存知です。」このやり取りが3回あります。なぜペトロはこんなに回りくどい言い方で答えているのでしょうか。「はい、愛しています。」この一言だけでいいはずなのです。それは、彼の中に、自分は愛したくても、愛せないでイエスを見捨てて逃げてしまった、という痛み、叫びがあったからではないでしょうか。わたしたちも、ペトロのように、誰かを本当の意味で愛することはできないのかもしれませんが、まず、愛せないという自分と向き合うことは勇気のいることです。しかしイエスはそのような私たちと真剣に向き合い、受け入れてくださるのです。

（東北学院中学校・高等学校教諭 成 智圭）

前奏：G. A. ホミリウス作曲「装いせよ、おお、わが魂よ」
後奏：M. レーガー作曲「強き王なる主をほめまつれ」



ホミリウスはバッハの門下として学んだ後、ドレスデンの各教会のカントールとして活躍しました。レーガーは後期ロマン派のドイツで活躍し多くの作品を残しています。とりわけオルガンの演奏と作曲に熱心に取り組み、作品はルター派賛美歌に基づいた小品から大作まで多岐にわたっています。

（オルガニスト 小野 なおみ）

礼拝とその後19時から19時30分までの小野なおみ氏によるオルガンによる賛美に47名の方が参加されました。

礼拝後、音楽による賛美（オルガン演奏：小野 なおみ）

1. G. ムファット作曲「トッカータ 第1番」
2. J. S. バッハ作曲「我ら悩みの極みにありてBWV668a」
3. M. プレトリウス作曲「我らが神は堅き砦」



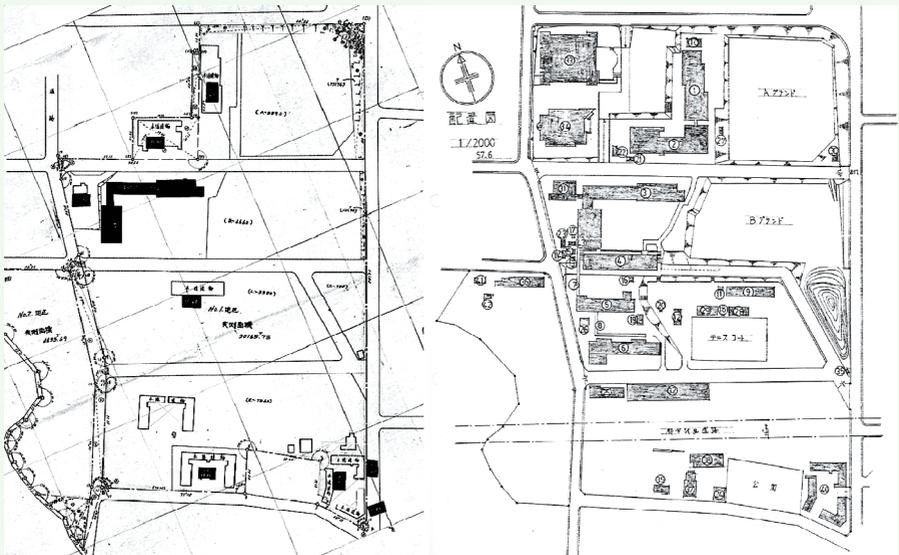
ムファットはフランスに生まれ南ドイツで活躍した音楽家です。「トッカータ 第1番」は伝統的なイタリアの形式に則っています。バッハの作品は晩年に視力を失ったバッハが口述筆記をさせたものです。多作家としても知られるプレトリウスは初期バロック時代の重要な作曲家であり、ルター派教会音楽の発展に大きな影響を与えました。また、彼が執筆した「音楽大全」という論文集は当時の楽器や演奏について詳細に記されており、現在でも通じる重要な資料となっています。

（小野 なおみ）

— 建築が語る東北学院の歴史 (34) —

多賀城キャンパスは開設後の60年間で大きく変化・発展を遂げました。旧米軍施設と1棟の新築校舎から始まった最初のキャンパスは決して十分な環境とは言えませんが、その後の発展過程には目覚ましいものがありました。

下に、工学部開設時(1962)と、20年後(1982年6月)の配置図を並べて示しました。双方を比較すると、講義室と研究室の確保から始まったキャンパスの建設は、次いで実験・実習施設や厚生施設へと展開していったことが分かります。図中には、2棟の転用校舎(北側の1・2号館)と4棟の新築校舎(開設時に新設された3号館、以下南へ4・5・6号館)を中心に、その周囲に実験棟(1968年)、自動車実習室(1970年新築・1981年移築)、電気実験室(1971年)、水力実験室(1973年)、旭ヶ丘寄宿舍(1969年)、部室棟(1963年ほか)、弓道場(1981年)などを確認できます。校地の東側には2つのグラウンドとテニスコート。後にはプールやボウガン射場が設けられたことも知られています。また、1982年の図の最北にあるのは体育館と図書館ですが、ここは校地南部を東西に貫通した都市計画道路との関係で後に拡張したエリアです。キャンパスの整備に際しては、土木工学科の学生が構内道路を施工するなど工学部らしい光景もありました。(工学部 崎山 俊雄)



図：開設時(1962：左)と20年後(1982：右)の施設配置

※左図は国立公文書館蔵の青焼図をトリミングの上、色調補正。右図は工学部旧蔵。

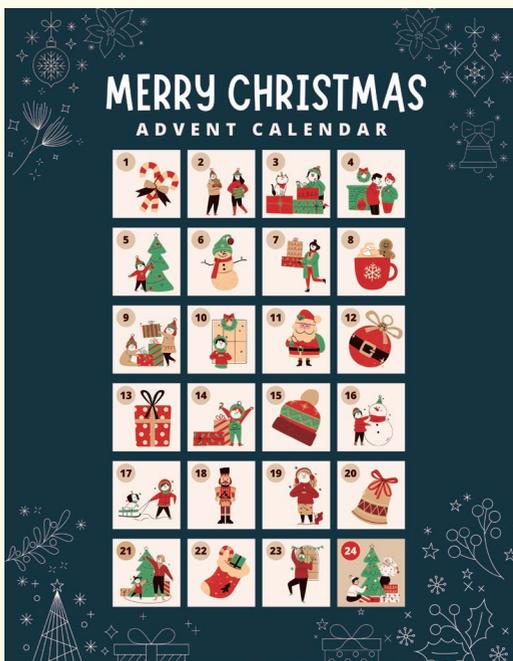
「アドヴェント・カレンダー」とは？

皆さんは「アドヴェント・カレンダー」をご存じでしょうか？最近は大手のファッションブランドも、24個のコスメをセットしたクリスマス用ギフトとして商戦を展開するなど、じわりじわりと日本社会にも浸透している印象があります。

そもそも「アドヴェント」とは12月25日のクリスマスまでの約4週間にわたる準備期間のことであり、日本では「待降節」と訳し、イエス・キリストの降誕を一日毎に待ち望む特別な時期をそう呼んでいます。ツリーやリースなど、クリスマスの飾り付けが行われるのもこの期間です。ただし、日本では「キリスト教の常識」が浸透していないせいか、10月31日のハロウィンが終わると、一部の店舗ではすぐに「クリスマス商戦」に向けたクリスマスの飾り付けが始まってしまい、アドヴェントの特別な季節感が感じられなくなっています。

「1」から「24」までの数字で構成されるアドヴェント・カレンダーは12月1日から24日までを表しており、キリスト教の諸国の家庭ではこのカレンダーを12月から使い始めます。冒頭で紹介した女性向けのコスメセットは、その日付の当日はその数字のボックスに入っている香水や口紅を付けるという具合に、その日に何が入っているのかワクワク楽しみながらイヴの日を迎えるようです。皆さんも思い思いのアドヴェント・カレンダーで、個人でも家庭でも、楽しみながらクリスマスの到来を迎えてみてはいかがでしょうか？

(宗教センター主任 原田 浩司)



東北学院宗教センター編「水曜通信」第43号
2024年12月4日発行

発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司
東北学院宗教センター TEL：022-354-8310
〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1
Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp



宗教センターHP